

平成 27 年度

大阪市「全国学力・学習状況調査」

の結果について

平成 27 年 10 月

大阪市教育委員会

はじめに

「全国学力・学習状況調査」は、国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的に、平成 19 年度より実施しています。

大阪市教育委員会では、保護者や市民の皆様説明責任を果たすとともに、教育により関心をお持ちいただくため、本調査結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、学校が総体となって取り組むべき課題であると捉え、平成 20 年度より調査結果と学力向上に向けた取組を併せて公表してきました。

さらに、平成 25 年度からは、大阪市立学校活性化条例や大阪市教育振興基本計画の趣旨に基づき、大阪市教育委員会の責任において、各校長が、「全国学力・学習状況調査」の自校における平均正答率を含む調査結果及び調査結果の分析から明らかになった現状や、自校の取組の成果、今後取り組むべき課題等を公表しています。

児童生徒の学力向上には、学校はもとより、保護者、地域（市民）の方々に本市の子どもたちの現状を理解していただき、学校・家庭・地域が連携して取り組むことが重要です。そこで、本調査の結果を基に分析を行い、「児童生徒のがんばり」と「今後の課題」、「学校や家庭での取組のポイント」「効果があった取組例」等としてまとめ公表します。

また、大阪市教育振興基本計画に基づいた「学力向上に向けた大阪市の取組」の概要も示しています。

大阪市教育委員会としましては、これらの分析結果等を基に、本市の児童生徒の学力向上に向け、より一層取組を進めていきます。

(参考)

実施年度	全 国	大 阪 市	備 考
平成 19 年度～平成 21 年度	悉皆調査※1	悉皆調査（全小中学校が参加）	
平成 22 年度	抽出調査※2	抽出調査+希望利用方式※3（全小中学校が参加）	
平成 23 年度	実施なし	希望利用方式（全小中学校が参加）	
平成 24 年度	抽出調査	抽出調査+希望利用方式（全小中学校が参加）	・理科に関する調査
平成 25 年度	悉皆調査	悉皆調査（全小中学校が参加）	・経年変化分析調査 ・保護者に対する調査 ・教育委員会に対する調査
平成 26 年度	悉皆調査	悉皆調査（全小中学校が参加）	
平成 27 年度	悉皆調査	悉皆調査（全小中学校が参加）	・理科に関する調査

※1：全国の小中学校をもれなく調査する方法

※2：全小中学校のうち、一定の割合の学校を対象として調査する方法

※3：学校長の希望により、調査を利用することができる方法

目 次

◇ 調査の概要	1	
・ 教科に関する調査結果の概要	・ 平均正答率《大阪市と全国》	
・ 平均無解答率《大阪市と全国》	・ 各問題における正答数分布	
・ 大阪市の平均正答率・平均正答数・平均無解答率		
◇ 教科に関する調査結果	5	
・ 小学校国語	・ 小学校算数	・ 小学校理科
・ 中学校国語	・ 中学校数学	・ 中学校理科
◇ 質問紙調査の結果	29	
・ 学びの充実に向けて	・ 基本的な生活習慣	・ 家庭学習
・ 自尊意識・規範意識	・ 学校・家庭・地域の連携	・ 学校の取組の改善
◇ 学力向上に向けた大阪市の取組	43	
・ 言語力や論理的思考能力の育成	・ 習熟度別少人数授業の実施	
・ 学習教材データ配信	・ ICT を活用した教育の推進	
・ 学校図書館活性化事業、学校図書館活用推進事業	・ 理科教育の充実	
・ 英語イノベーション事業	・ 学習サポーターの配置	
・ 生活指導支援員の配置	・ 学び続ける教員サポート事業	
・ 小中一貫した教育	・ 幼稚園・保育所・小学校の連携	
・ 放課後ステップアップ事業	・ 学校元気アップ地域本部事業	
・ 学校キャラバン隊		

調査の概要

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、大阪市教育振興基本計画に基づく教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年の全児童
- 中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年の全生徒

3 調査内容

- ◇教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- ※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題。
- ◇質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

4 調査方式 悉皆調査

5 調査日 平成27年4月21日(火)

6 調査を実施した学校・児童生徒数

- ・小学校（特別支援学校含）295校、18,405人
- ・中学校（特別支援学校含）134校、17,527人

教科に関する調査結果の概要

- 国語、算数・数学の平均正答率は、平成26年度と比べ、小学校においては算数B問題を除いて全国との差がやや広がっています。また、全国の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を示す対全国比においても、国語B問題を除いて若干ですが差が広がっている状況です。
中学校においては国語A・B問題、数学A・B問題で全国との差が縮小し、対全国比においても顕著な改善が見られます。
- 理科の平均正答率は、前回調査（平成24年度）と比べ、小学校においては全国との差が広がっており、対全国比において0.074ポイントの差があります。
中学校においては全国との差が縮小していますが、対全国比において0.070ポイントの差があります。
- 平均無解答率は、小学校においては国語A問題で全国との差がわずかに広がったものの、概ね全国水準となっています。
中学校においては全ての教科で大きく改善し、概ね全国水準となっています。

平均正答率《大阪市と全国》

※平成23年度は、東日本大震災の影響により、全国調査は見送られた。

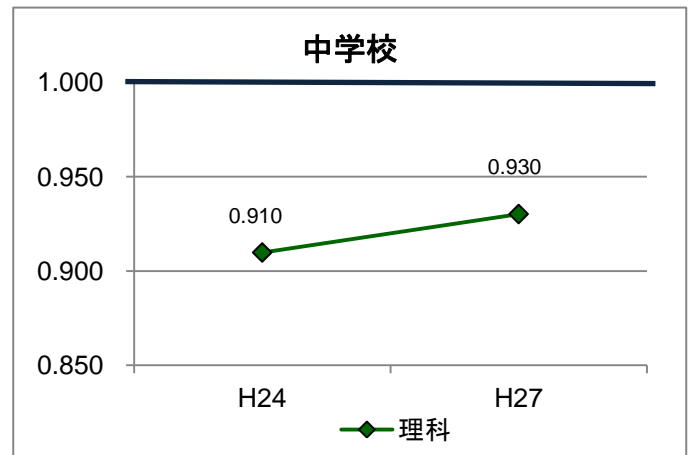
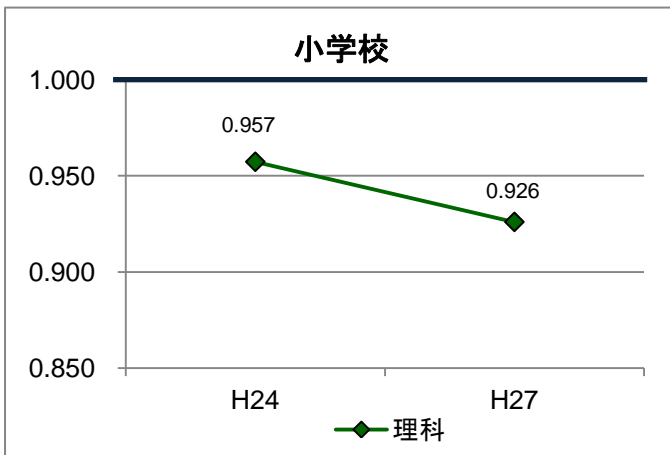
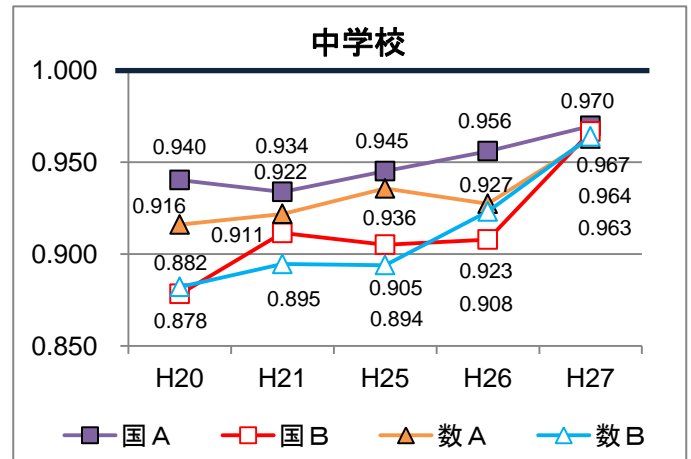
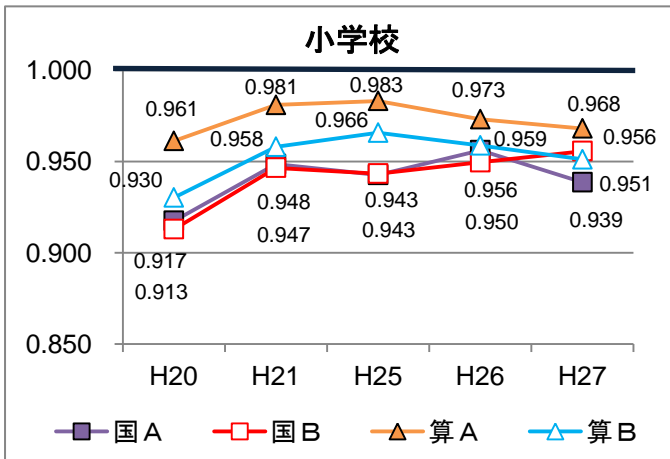
※悉皆調査の平成20,21,25,26,27年度を取り上げています。

		H20			H21			H25			H26			H27		
		大阪市	全国	差	大阪市	全国	差	大阪市	全国	差	大阪市	全国	差	大阪市	全国	差
小国	A問題	60.0	65.4	-5.4	66.3	69.9	-3.6	59.1	62.7	-3.6	69.7	72.9	-3.2	65.7	70.0	-4.3
	B問題	46.1	50.5	-4.4	47.8	50.5	-2.7	46.6	49.4	-2.8	52.7	55.5	-2.8	62.5	65.4	-2.9
小算	A問題	69.4	72.2	-2.8	77.2	78.7	-1.5	75.9	77.2	-1.3	76.0	78.1	-2.1	72.8	75.2	-2.4
	B問題	48.0	51.6	-3.6	52.5	54.8	-2.3	56.4	58.4	-2.0	55.8	58.2	-2.4	42.8	45.0	-2.2
中国	A問題	69.2	73.6	-4.4	71.9	77.0	-5.1	72.2	76.4	-4.2	75.9	79.4	-3.5	73.5	75.8	-2.3
	B問題	53.4	60.8	-7.4	67.9	74.5	-6.6	61.0	67.4	-6.4	46.3	51.0	-4.7	63.6	65.8	-2.2
中数	A問題	57.8	63.1	-5.3	57.8	62.7	-4.9	59.6	63.7	-4.1	62.5	67.4	-4.9	62.0	64.4	-2.4
	B問題	43.4	49.2	-5.8	50.9	56.9	-6.0	37.1	41.5	-4.4	55.2	59.8	-4.6	40.1	41.6	-1.5

	H24			H27		
	大阪市	全国	差	大阪市	全国	差
小理	58.3	60.9	-2.6	56.3	60.8	-4.5
中理	46.4	51.0	-4.6	49.3	53.0	-3.7

■ 対全国比経年比較

※グラフは、全国の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を表したものです。

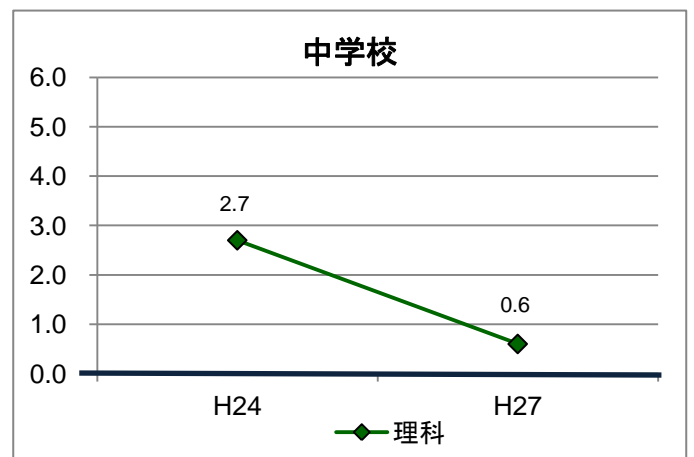
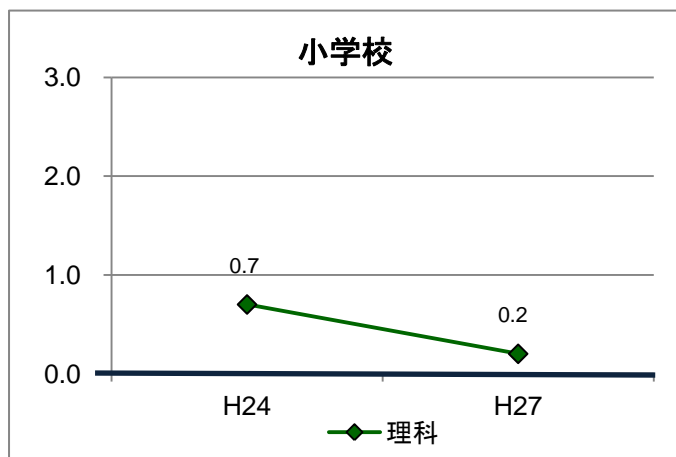
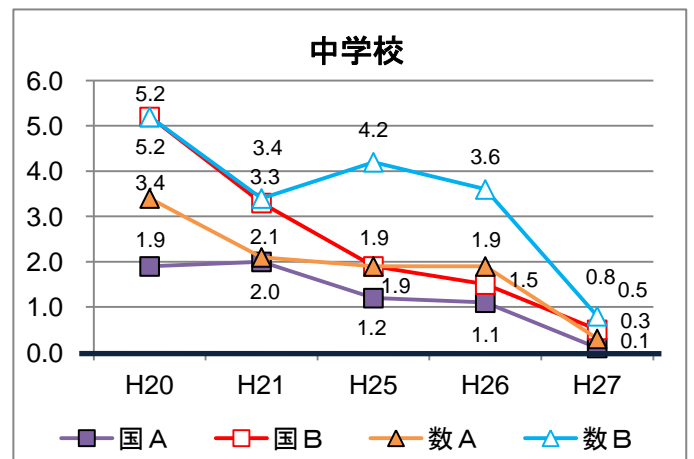
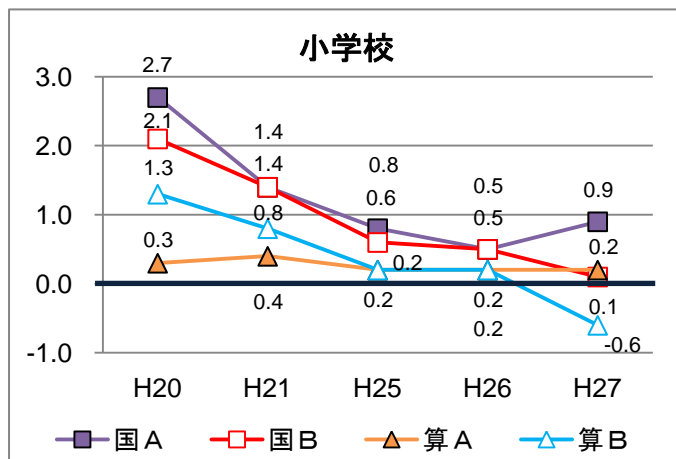


平均無解答率《大阪市と全国》

		H20			H21			H25			H26			H27		
		大阪市	全国	差	大阪市	全国	差	大阪市	全国	差	大阪市	全国	差	大阪市	全国	差
小国	A問題	13.6	10.9	2.7	11.3	9.9	1.4	11.5	10.7	0.8	2.8	2.3	0.5	4.5	3.6	0.9
	B問題	14.4	12.3	2.1	13.5	12.1	1.4	14.2	13.6	0.6	9.7	9.2	0.5	6.2	6.1	0.1
小算	A問題	3.3	3.0	0.3	2.5	2.1	0.4	1.9	1.7	0.2	1.1	0.9	0.2	2.0	1.8	0.2
	B問題	7.3	6.0	1.3	7.0	6.2	0.8	6.5	6.3	0.2	4.5	4.3	0.2	8.5	9.1	-0.6
中国	A問題	5.7	3.8	1.9	5.3	3.3	2.0	3.6	2.4	1.2	4.2	3.1	1.1	2.7	2.6	0.1
	B問題	13.9	8.7	5.2	8.9	5.6	3.3	4.7	2.8	1.9	5.0	3.5	1.5	2.7	2.2	0.5
中数	A問題	10.0	6.6	3.4	7.2	5.1	2.1	7.2	5.3	1.9	6.2	4.3	1.9	4.0	3.7	0.3
	B問題	18.6	13.4	5.2	13.1	9.7	3.4	20.9	16.7	4.2	14.5	10.9	3.6	16.1	15.3	0.8

		H24			H27		
		大阪市	全国	差	大阪市	全国	差
小理		3.8	3.1	0.7	3.4	3.2	0.2
中理		12.1	9.4	2.7	7.6	7.0	0.6

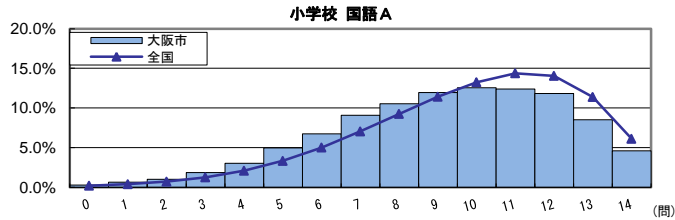
■ 対全国差経年比較



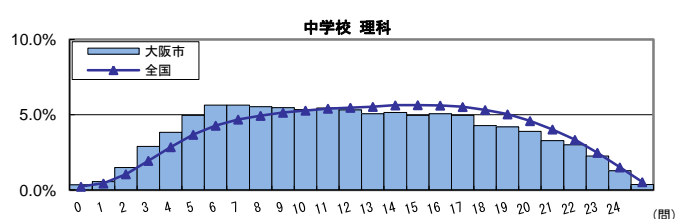
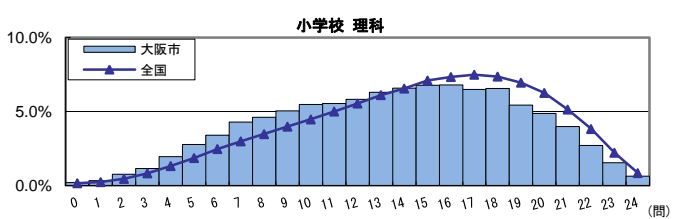
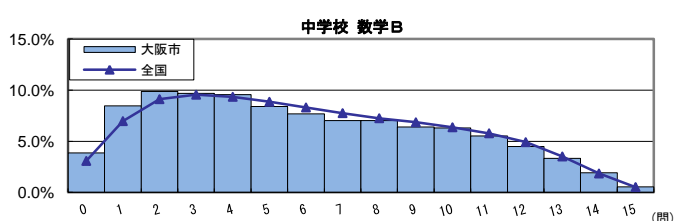
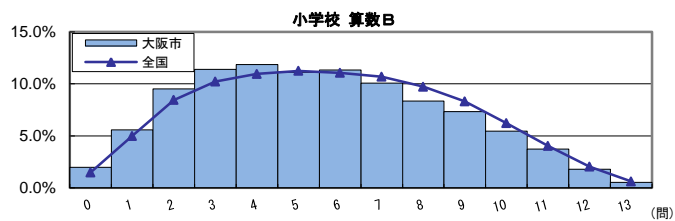
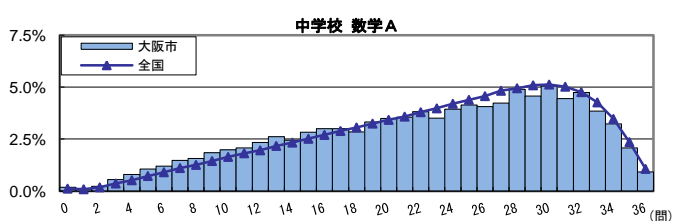
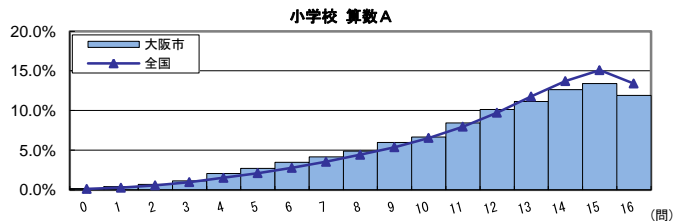
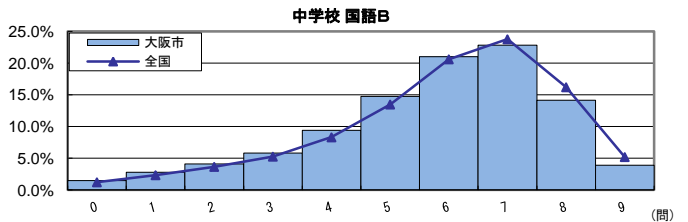
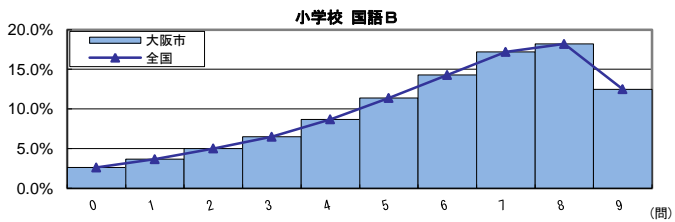
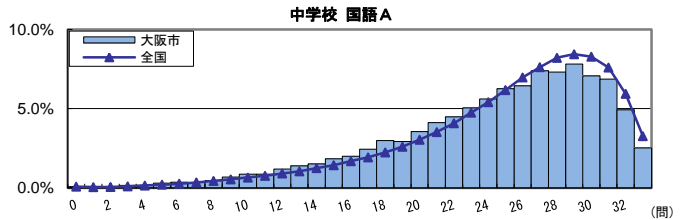
各問題における正答数分布

下のグラフは、大阪市を棒グラフ、全国を折れ線グラフで示している。大阪市のグラフは、全国とほぼ同じような形状であるが、いずれの教科においても、棒グラフの方が左に寄っていることから、大阪市は全国に比べて正答数の少ない児童生徒の割合が高いことが分かる。

小学校



中学校



大阪市の平均正答率・平均正答数・平均無解答率

小学校	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
平均正答率	65.7	62.5	72.8	42.8	56.3
平均正答数	9.2 問/14 問	5.6 問/9 問	11.6 問/16 問	5.6 問/13 問	13.5 問/24 問
平均無解答率	4.5	6.2	2.0	8.5	3.4

中学校	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
平均正答率	73.5	63.6	62.0	40.1	49.3
平均正答数	24.3 問/33 問	5.7 問/9 問	22.3 問/36 問	6.0 問/15 問	12.3 問/25 問
平均無解答率	2.7	2.7	4.0	16.1	7.6